

第2回 定例研修会

セレクトドレクチャー 要介護を見据えたインプラントの是非 特別講演 顎運動に調和したスーパーストラクチャーデザイン

日時：11月3日(木)

場所：秋葉原UDXギャラリーネクスト3



齋藤 琢也 (群馬県)



平成28年11月3日(木)、秋葉原UDXギャラリーネクスト3にて第2回定例研修会が行われた。

今回の定例研修会には、35名を超える先生方がお集まりになり、盛大な研修会となった。当会、会長であらせられます田中 譲治先生の挨拶から始まり、最初は会員の先生の発表である。

まず、始めに登壇されたのは、須田 善行先生が『GDS総義歯の模型分析法を利用した無歯顎インプラント患者のサージカルステントの設計・製作』と言う演題で発表が始まった。午後からの特別講演である松本 勝利先生の開発したGDSの模型分析をインプラント治療に応用した上顎の骨吸収から排列の位置決定をわかりやすく説明し、今後のインプラントポジションの設定位置を決める上で素晴らしい情報を提供していただいた。

次に、浅賀 勝寛先生が『超高齢者におけるインプラント上部補綴長期維持の問題点』と言う演題で、患者さんの加齢による認知機能の低下における口腔清掃の維持を図る為、上部構造をボーンアン

カードブリッジからオーバーデンチャーへ変更した症例でインプラント周囲に角化歯肉の存在が非常に重要であると説明されていた。

次に、齋藤 雅司先生が『上顎のフルマウスボーンアンカードブリッジ症例について』と言う演題で、コンピューターガイドドサージェリーを用いたインプラント埋入のケースを発表され顔貌写真も術前から術中、術後まできちんと整理された素晴らしい発表であった。

次に、細野 拓生先生が『インプラント周囲炎に対するImplantoplastyを併用した切除療法の有用性に関する臨床的検討』と言う演題で、インプラント周囲炎患者に対する対応方法を説明していただいた。

最後に、芦澤 仁先生が『上顎欠損部位に対してインプラントを埋入しロケーターアバットメントを用いてOver Dentureを作製し咬合機能を回復した症例』と言う演題で、エビデンスに基づいて設計をし、患者のQOLの向上とメンテナンスを考えた症例を提示していただいた。

第2回定例研修会

その後、セレクトドドクターによるシンポジウムとして今回のテーマは『要介護を見据えて、インプラントの是非を考える』という今、日本の超高齢化社会を迎えるこの時代に歯科医師、歯科医療に従事する立場から3人の先生方にご教授いただいた。

最初に小林 真理子先生による『インプラント補綴装置と口腔ケアを再考する』という演題で病院歯科における口腔ケアの必要があるインプラント患者と研究データや文献を照合しながらインプラントの有用性と介護者を含めた誰もがケアしやすい補綴形態について講演していただいた。

次に、角田 宗弘先生による『要介護高齢者の口腔機能保持に効果的なインプラントを考える』という演題で摂食嚥下等の口腔機能の保持という側面から良好な咬合を有する患者の方が有利であると言われていた。

次に、森村 新先生による『セルフケアが困難な要介護者からみるインプラントの将来性』という演題で認知症の患者さんは寝たきりと呼ばれる人と違い、ブラッシングや診療に対して拒否する事も多く施設の介護職員、介護を担う家族の協力が必要と言われていた。

午後に入り、特別講演で松本 勝利先生による『顎運動に調和した咬合高径、咬合平面の決定方法とスーパーストラクチャーポジションについて』という演題で、口腔内の補綴物を長期的に安定させる

為には、炎症と力のコントロールが重要である。力のコントロールで咬合咬頭干渉を起こさせないような咬合を確立するには、上下顎運動に干渉させないような咬合を確立する要素をご教授いただいた。

最後に、シンポジスト、並びに松本 勝利先生から参加いただいた先生方からたくさんの質疑応答に丁寧に回答していただき会長からも人選も内容も素晴らしい研修会であったとお褒めいただいた。



懇親会も大いに盛り上がり次回の定例研修会もたくさんの先生方に参加していただき会を盛り上げていきたいと思っております。

